



■ 伴とし子先生講演会「輝く橘の郷」

AM9:30～10:10

～伝説に秘められた貴重な歴史～

伴とし子先生プロフィール

伝説、歴史の研究に取り組み、大丹波王国論（丹後王国論）を展開。「古代丹後王国は、あった」「前ヤマト創った大丹波王国」「応神と仁徳に隠され海人族の真相」「卑弥呼の謎に迫る」ほか著者多数「和久傳 森の中の家 安野光雅館」副館長

■ 伝承を巡る町歩きツアー（売布神社と木津周辺）

AM10:20～12:00

昼食

■ 売布神社と橘をウィキペディアに掲載しよう

持ち物（ウィキペディア参加者）：Wi-Fi 接続可能なノートパソコン、タブレット等、インターネットに接続し、文字入力ができる個人端末

PM1:00～4:00

■ 橘（トキジクノカグノコノミ）を使った菓子の提案と食材の選定

PM1:00～4:00

場所 たちばな会館 京丹後市網野町木津 827 電話 0772-74-0047

主催 ヒカリ美術館 共催 edit tango 協力 木津連合区 浜詰区
京都府地域交響プロジェクト交付金 京丹後市韓哲・まちづくり夢基金のご支援頂き開催します。

タ
ジ
マ
モ
リ

日の里「橘」

2026 年は地域の名称「橘」をコンセプトにまちの景色を見直したいと思う。橘の歴史を紐解くと伝承では垂仁天皇の命を受けた田道間守（タジマモリ）が苦勞の末に不老不死の靈菓「トキジクノカグノコノミ」を探し出し、大陸から持ち帰って常世の浜（浜詰箱石浜）にたどり着いたという。しかし天皇（垂仁天皇）は亡くなられていて一部は朝廷に献上し、残りは丹後の地（現在の木津）に残したそうだ。また橘は菓子の原形と言われている。

この伝承が事実であるかは定かでないが「橘」というこの地の名称は今も残っている。現在では「木津」という地名が使われていて、語源は木津川河口が湾になっており船の出入りがあり、橘（即ちきつ）の港が「木津」になったかもしれない。いずれにしろ「橘」が最初の語源で、この地区が「橘」の伝承を引き継ぎ、未来に繋げていきたい。田道間守が持ち帰った「橘」から始まり、不老不死、菓子の語源、常世の国などとたいへんロマンに満ち溢れた地区である。

近くには子午線のモニュメントもあり、子午線は日本の標準時である東経 135° で、太陽が真上にくれば午前から午後になり、1 日を象徴する場所である。国道 178 号線が子午線を横断している。ここを通る時太陽を意識するが、太陽がこの場所を横切るのではなく地球の自転によって時間が定められている。時間の概念は昔からあったと思われるが古代から太陽や月の動きそのものが時間の基準である。

この場所には時空を超えた浦島伝説や羽衣伝説もあり、夕日 100 選の場所でもある。また 1965 年に松本清張がこの地を題材にした推理小説『D の複合』を執筆している。

今後「橘」を新しいまちづくりの魅力として、また観光の目玉として、発信したい。日の里「橘」として。

売布神社（めふじんじゃ）



垂仁天皇九十年、田道間守が垂仁天皇の勅命にて不老不死の香菓の実を求めて常世の国へ赴き、苦難の末、景行天皇元年三月十二日に帰国し、田神山（屋船山）にて神籬を設けて神典をあげたことを創祀とする。その後、小字売布谷に移され、文安四年（1447）八月、現在地に遷座したという。式内社・賣布神社に比定される古社。正安二年（1330）、村内に疫病が流行したため京都祇園社より素盞鳴尊を勧請。よって、通称を祇園さんというらしい。主祭神は豊宇賀能咩命だが、社号から大賣布命とする説もある。明治六年二月村社に列した。

俵野廃寺跡（たわらのはいじ）



俵野廃寺は奈良時代に丹後国分寺が建立されるまでの、現在見つかっている丹後唯一の古代寺院であり、現状、丹後最古の古代寺院と言える。古くは大正 11 年に塔心礎と思われる礎石が見つかっている。令和 6 年 4 月 17 日には現地に説明看板が設置され、さらに俵野ふれあい広場には石碑が設置され、令和 6 年 8 月 4 日に除幕式が行われた。また令和 7 年 3 月 26 日、京丹後市市民遺産に認定されました。

志布比神社（しぶひじんじゃ）



11 代垂仁天皇のとき、新羅の皇子天日槍命が九品の宝物を日本の垂仁天皇に献上した、御座船が塩土翁の神（志布比の神）に導かれて上陸した。この地で、天日槍命は塩比の浜に鎮座し、その地を宮故（クゴ）と名付け、命が但馬出石に移つてのちは塩土翁の神も同所に祭られるようになった。そののち社地の近くには人家が立ち並び穢れ多くなり、祠を志布比浜の海のほとりに奉還した。浜詰小学校の東方の高みのあたりを塩井地（せえじ）と云って元塩江部落のあった所だという。ここから南方を見れば浜詰の前が田んぼである。ここに志布比のお宮があったとすれば何らの不自然はない。



「駅まちウィキペディア」とは？

2026 年 10 月に京丹後市で「全国ローカル鉄道サポーターズサミット」が初めて開催されるのに向けて、京都丹後鉄道沿線にある地区の見どころを、世界有数のアクセス数を誇るインターネット百科事典 Wikipedia（ウィキペディア）で紹介しよう！というイベントです。7 月に丹後大宮駅（口大野）、10 月に網野駅（下岡）などでも開催を計画しています。